

「健康しが」 共創会議共同出展ブースレポート

< 前回のワーキングで検討したポイント >

- 「健康しが」をまず知ってもらう入口をつくる
- 資料を活用した声かけで、体験へつなげる
- 体験を通して、“自然に健康になれる暮らし”に気づいてもらう



ワーキングでの検討が実現しました！

「健康しが」の取り組み紹介

来場者の方に対しては、まず「健康しが」という言葉を知っているかを入口として、滋賀県の健康寿命の特徴や、「自然に健康になれるまちづくり」という考え方、資料を用いて、県の取組内容について分かりやすく紹介する導入を設けました。



体験① 森永乳業株式会社

スマートフォンを用いた「腸年齢チェック」を体験していただきました。結果をもとに、日頃の食生活や生活習慣と腸の健康との関係についてフィードバックを行い、腸内環境への関心を高める機会としました。

また、体験後にはアンケートへの協力を呼びかけ、回答者には森永乳業の商品（森永牛乳またはマミー）のプレゼントを通じて、腸の健康に関わる食品への関心喚起を図りました。



体験② 近畿健康管理センター

脳の健康度計測アプリ「MIRUDAKE」を活用した認知機能チェックを体験していただきました。測定結果をお伝えするとともに、「認知症予防のための12のポイント」をまとめた資料を配布し、来場者が家庭でも健康づくりに取り組めるよう情報提供を行いました。



当日体験者数

- 森永乳業株式会社→180名
- 近畿健康管理センター→34名



★ブース来場者合計 214名★



今回のワーキングチームの成果

- 「健康しが」の取組を来場者に広く発信
- 腸や脳の健康チェック体験を通じた健康づくりへの気づきの創出
- 共創会議参画企業と連携した体験型ブースの実施
- 企業の専門性やコンテンツを活かした健康情報の提供

今回の共同ブースは、「健康しが」共創会議に参画する企業・団体と連携して実施し、「健康しが」の取組紹介と企業の健康関連コンテンツを組み合わせることで、来場者が楽しみながら健康づくりについて学べる体験型の取組となりました。